

## 1-1 『2008年度 学生センター白書』に寄せて

学生センター長 宮崎 伸光

昨年度の『学生部白書』においてお知らせしましたように、法政大学の学生部は2008年度から学生センターに装いを改めました。ここに記念すべき『学生センター白書』第1号をお届けします。

伝統ある学生部から学生センターへの衣替えは、単なる看板の掛け替えではありません。これを機に、学生生活全般を支援する組織の在り方をラジカルに見直し、市ヶ谷、多摩、小金井の3キャンパスの連携を図りながら、効果的にさまざまな施策を実践していくことを目指しています。

しかし、そうした志とは裏腹に、厳しい現実と直面せざるを得ませんでした。10月初頭にマスコミ各社は、本学の学生が大麻所持の容疑で逮捕されたことを一斉に報じました。私たちは、少なくともそれまでは健全な学生生活環境を整備し発展させることに努めていたつもりでした。しかし、根本的なところで間違いを犯していたのかもしれませんが、ちょっとした好奇心に始まり、いつしか肉体のみならず精神までもが蝕まれていく危険について、注意喚起が足りなかったことを痛感させられました。まさに痛恨の極みでした。

私たちは、大麻等薬物乱用の防止を図るキャンペーンを急遽立ち上げ、実施しました。同時に、学生が自ら学生生活を創造し、豊かに展開していく諸活動の支援にいっそう

力を注いでいきました。迂遠なようでも、学生の横溢するエネルギーを活かすことにこそ絶大な効果があると信じ、そこに期待を込めました。

また、2008年度は、100年に1度と評されるほどの経済危機に見舞われた年でもありました。いわゆる「内定切り」以外にも、学生生活に及ぼした影響は少なくありません。私たちは、学生生活に係る経済支援についても工夫をこらしました。

さらに、世相を反映して、あるいは受験制度の歪もあって、メンタルな問題を抱える学生が増える（あるいは、顕在化する）傾向があります。これに大学がどのようにして適切な対応をとるかは、かなり難しい問題です。私たちは、同様の問題を抱える他大学とも連携して取り組みつつあります。

以上、ざっと振り返っただけでも難問山積の1年間であったことが想起されます。しかしながら、担当職員そして教員による実際の毎日の業務は、明るく楽しく和やかに進められました。私たちは、みな後輩である学生たちの生活を支援することに喜びと誇りをもっています。本書には、私たちの活動が詰まっています。本書を手にしたみなさんに、この思いが伝わることを願っています。

